

## 7 研究の検証 —検証の方法—

複数の検証方法を検討し、多角的に検証する。

検証とは、仮説の有効性をできるだけ多面的に、正確に調べることです。仮説を取り入れた教育実践では、児童生徒の変容によって仮説の有効性を調べることになります。

検証方法	児童生徒の活動の様子を観察し、記録する。 「集団と個人の双方でデータを取る。」 「仮説に対応する事前と事後のデータを取る。」等
	児童生徒や保護者の意見をアンケート等により収集する。 「キーワードで分類し、分析する。」 「評定法を取り入れて、評定尺度の平均値を計算し、比較する。」 「クロス集計を行い、分析する。」等
	児童生徒の作品やテスト結果を分析する。 「チェックリストにより評価する。」(児童生徒の作品) 「評価の観点別、問題形式別に集計して評価する。」(テスト)等
	⋮
留意点	データを数値化すると、統計的な手法を使うことによって、データの傾向を読み取ることが可能となります。しかし、統計的な手法を使ったデータ処理が万能ではないということは、常に意識しておく必要があります。また、教育研究には検証が必要ですが、実際の指導の中で検証が困難な場合や限界もあります。したがって、教育研究の倫理性や限界を考慮し、研究を行う必要があります。

どのようなデータが必要であるかを明確にして、研究内容に応じて組み合わせます。

### コラム

手軽さから「アンケートを取り、その分析結果を基に検証する。」ということは頻繁に行われています。しかし、そのアンケートが「質問の意味が分からない」「答えに窮する」というような質問になっていないか、アンケート実施前に、質問事項を吟味することが大切です。よく見られる例として、次のようなものがあります。

- ① 同時に二つの内容を聞いている例  
「担任の先生や保護者はあなたの話を聞いてくれますか。」(児童生徒に対しての質問)  
担任の先生と保護者を分けた方が答えやすい質問になります。
- ② 難しい言葉や専門用語を使っている例  
「ICTを活用した授業は学力向上に有効だと思いますか。」(保護者に対しての質問)  
ICTという言葉は教職員以外には理解されない可能性があります。
- ③ アンケート対象者自身のことを聞きたいのか、アンケート対象者を含めた全体のことを聞きたいのか、明確にしていない例  
「保護者は地域と協力して、児童生徒が安全に通学できるようにしていますか。」(保護者に対しての質問)

〔参考文献〕 石村貞夫、加藤智恵子、劉晨『Excelによるアンケート処理』 東京書籍 2009